

ヒヤリハットに対する意識調査

～ヒヤリハットの報告数を増やす為に～

医療法人社団 喜生会 新富士病院
今田朱香

はじめに

当院でのレポートは、当事者又は発見者が記入する事となっている。平成28年の、当病棟でのヒヤリハットの報告件数は30件であった。

ハインリッヒの法則では1件の重大事故の背景には300件のヒヤリハットが存在すると言われている。そのため30件の報告では、分析し対策を講じる事はできず、重大事故につながる可能性もある。

ヒヤリハットの重要性を理解すれば事故防止に対する意識も向上するのではないかと考え、本研究を行った。

研究目的

スタッフがヒヤリハット報告の重要性を理解できる。

研究方法

1.対象：当院の病棟スタッフ30名

(看護師・看護助手・介護士・クレーク)

2.調査方法：アンケート調査

3.調査内容

職種・経験年数・レポートを記入する際に疑問に思う事

ヒヤリハットについて勉強会で行ってほしい内容

ヒヤリハットのレポート記入経験の有無

4.分析方法

ヒヤリハットに対する勉強会前後でアンケートを実施し、前後の結果を比較した。

5.倫理的配慮

研究で得られた情報・結果については、本研究のみで使用し、個人が特定されないようにした。

勉強会を有用にするため、なぜレポートが書けないのか 事前アンケートを行ったところ・・・

①ヒヤリハットを後で書こうと思って忘れてしまう。

②レポートの記入方法が難しい。

という意見が多かったため、

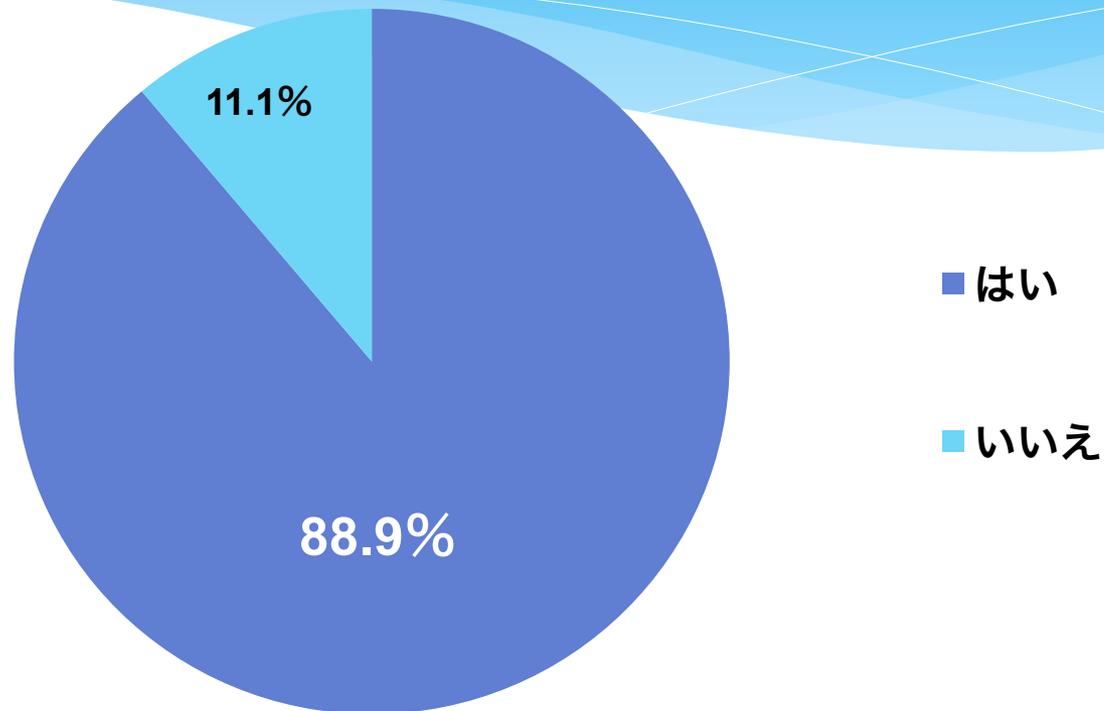
①ヒヤリハットの必要性について

②レポートの記入方法について

以上の2つに焦点を当てた勉強会を行った。

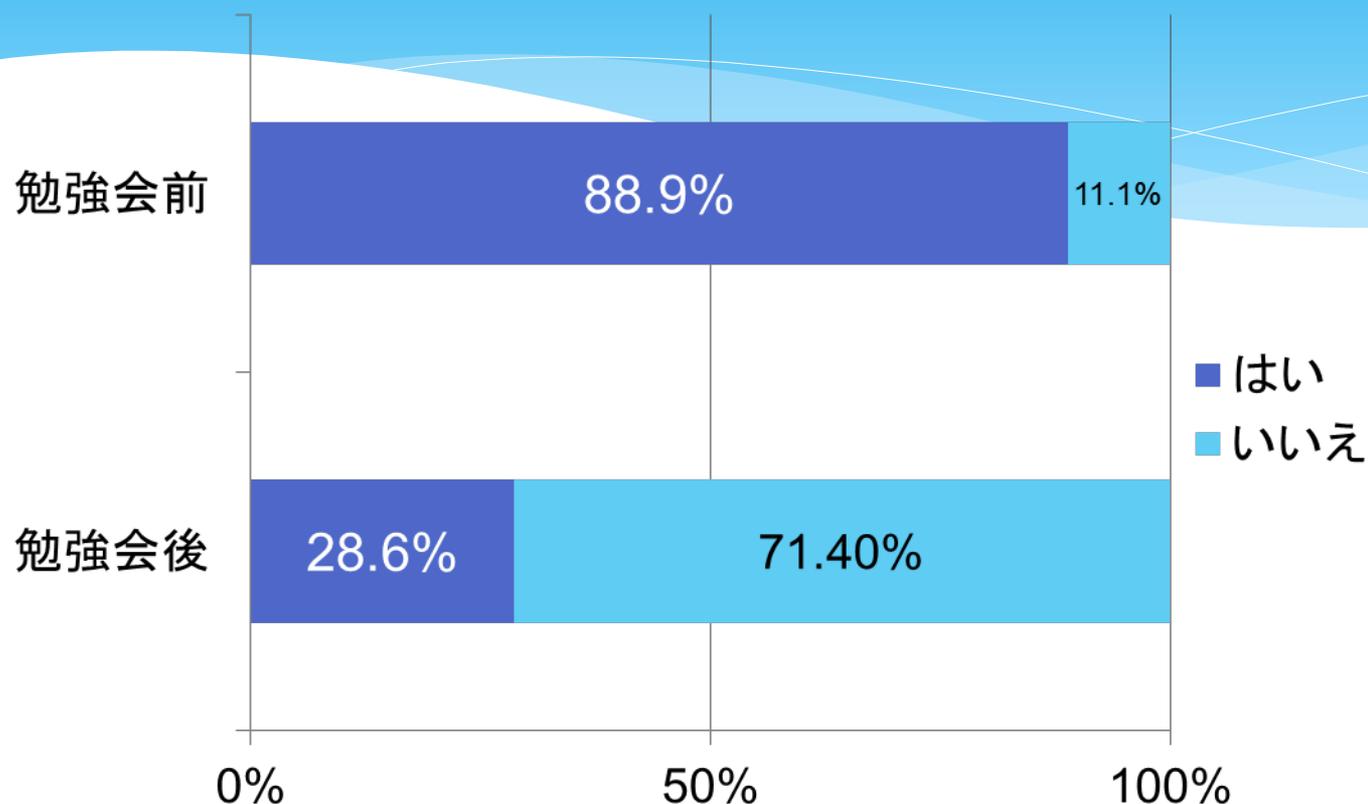
結果

1. 今までにヒヤリハットのレポートを記入したことがありますか。



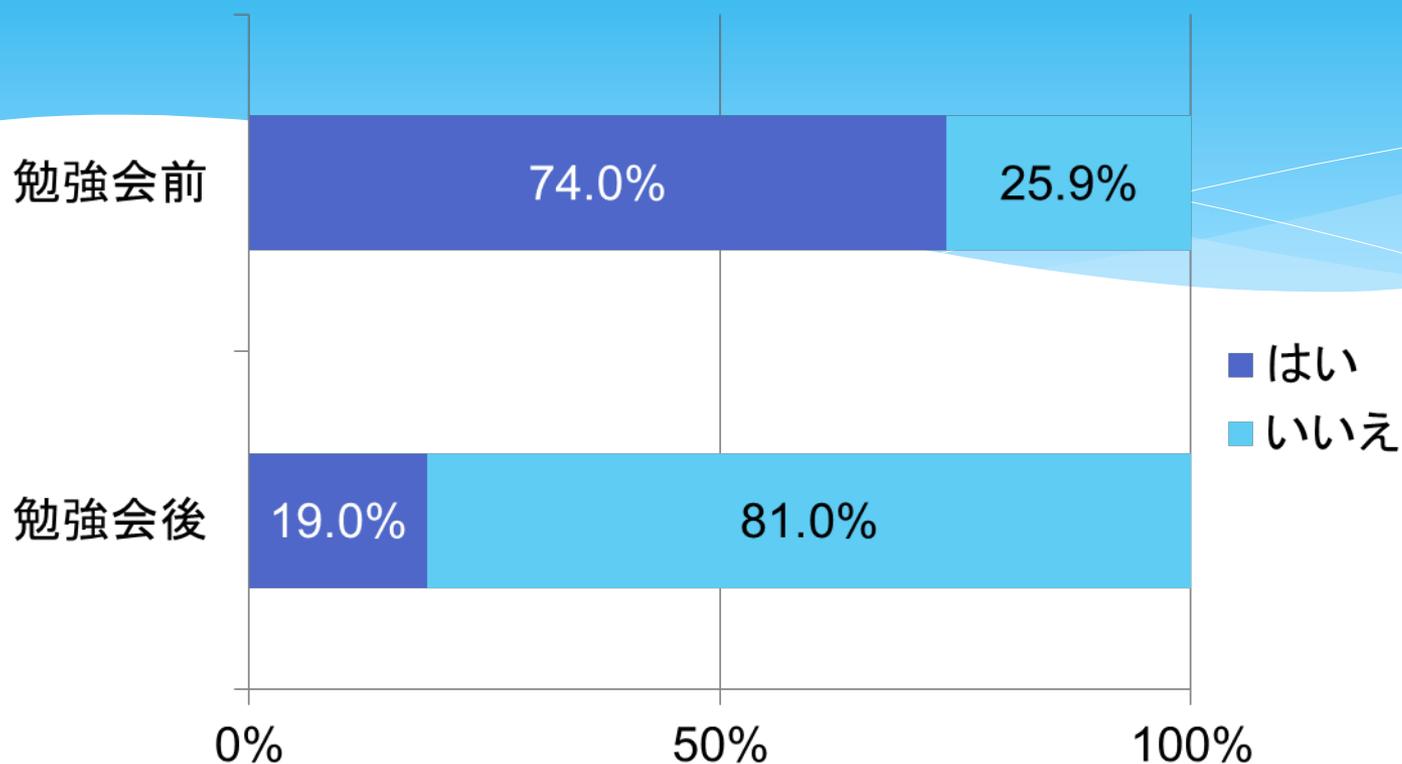
約90%のスタッフが記入経験があった。

2. 今までにヒヤリハットした場面に遭遇したが安全対策レポートを記入しなかったことはありますか。



ヒヤリハット場面に遭遇した際には、レポート記入をしてくれるスタッフが増加した事がわかる。

3. 時間的に記入する余裕がないと思いますか。



以前は、後日記入する場面が多かった。

勉強会后は、当日記入してくれるスタッフが増えた。

4. その他

- レポートの記入方法が分からない人は6名。
勉強会後でも4名と大きく改善しなかった。
- 報告がどのように使われているか分からないという人数は、
勉強会前後で全く変化がみられなかった。
- ヒヤリハット報告を余計な仕事と思っている人がいる。
勉強会後は減少したが0名とはならなかった。
- ヒヤリハット感じる場面には、個人差がある。

考察

①勉強会によりヒヤリハットの重要性を理解した為、レポートの記入を当日に行うスタッフが増加したと考えられる。

②レポートの記入方法について勉強会前後で差がなかったのは、勉強会の実施のみでは改善しなかったからだと考えられる。

今後は記入用紙の変更など、ハード面の整備が必要と考えられる。

③ヒヤリハット、インシデント、アクシデント発生日に申し送りで口頭報告と委員会での報告のみであったことや、レポート記入後、対策の再評価は行われていなかったことから、レポート記入が有効活用されていないと感じ、報告の必要性が感じられなかったと考えられる。

④少数ではあるが、ヒヤリハット報告を『告げ口をしている』と感じているスタッフもいた。

重大事故を防ぐ目的という事を指導すると同時に、犯人捜しをしているのではないという職場の環境作りが必要と思われる。

⑤個人により、『気付き』や、『ヒヤリ・ハット』する場所が異なる為、KYTの実施を継続的におこなっていき、スタッフの気付き力を向上させていく必要がある。

まとめ

勉強会を実施した結果、ヒヤリハットの必要性を理解し、遭遇時は、当日のうちに記入するようになった。

しかしながら、レポートの記入方法と有効な活用方法について全員には浸透しなかった。

ヒヤリハット遭遇時、すぐに記入ができ、尚且つスタッフ全員が情報共有できるシステム作りが今後の課題である。

引用・参考文献

- ・書きたくなるヒヤリハット報告体験から学ぶ看護事故防止のツボ 川村治子 発行2001年6月15日 第1版第3刷
- ・インシデントレポートは病院へのコンサルテーション。患者の治療の為の前向き業務
長尾能雅氏 週間医学界新聞 第2882号 2010年6月7日
- ・人間科学としての看護学序説
高橋照子 1991年1月1日 第一版第一刷
- ・医療安全ワークブック
川村治子 2015年 1月15日第3版第5刷
- ・医療安全に活かすKYT 兵藤 好美 第1版 2012年6月5日
- ・ナースのための危険予知トレーニングテキスト
杉山 良子 2010年5月7日